

3 旧参道を登る

①赤鳥居

堂々とした赤鳥居が迎える旧参道御坂は、昔、六供(ろくく)と呼ばれる羽黒大権現の社僧と、七宮人と呼ばれた楽人が差配しそれぞれの小宮・明神を護持していた。六供の小宮はいまも現存しており子孫達も信夫山に住んでいる。江戸時代の石積みや独特の屋敷跡が、当時の雰囲気を残している。



今も残る六供の小宮

②正八幡



④牛頭天王宮



⑥山王宮



③天神宮



⑤三宝荒神



⑦一の宮明神



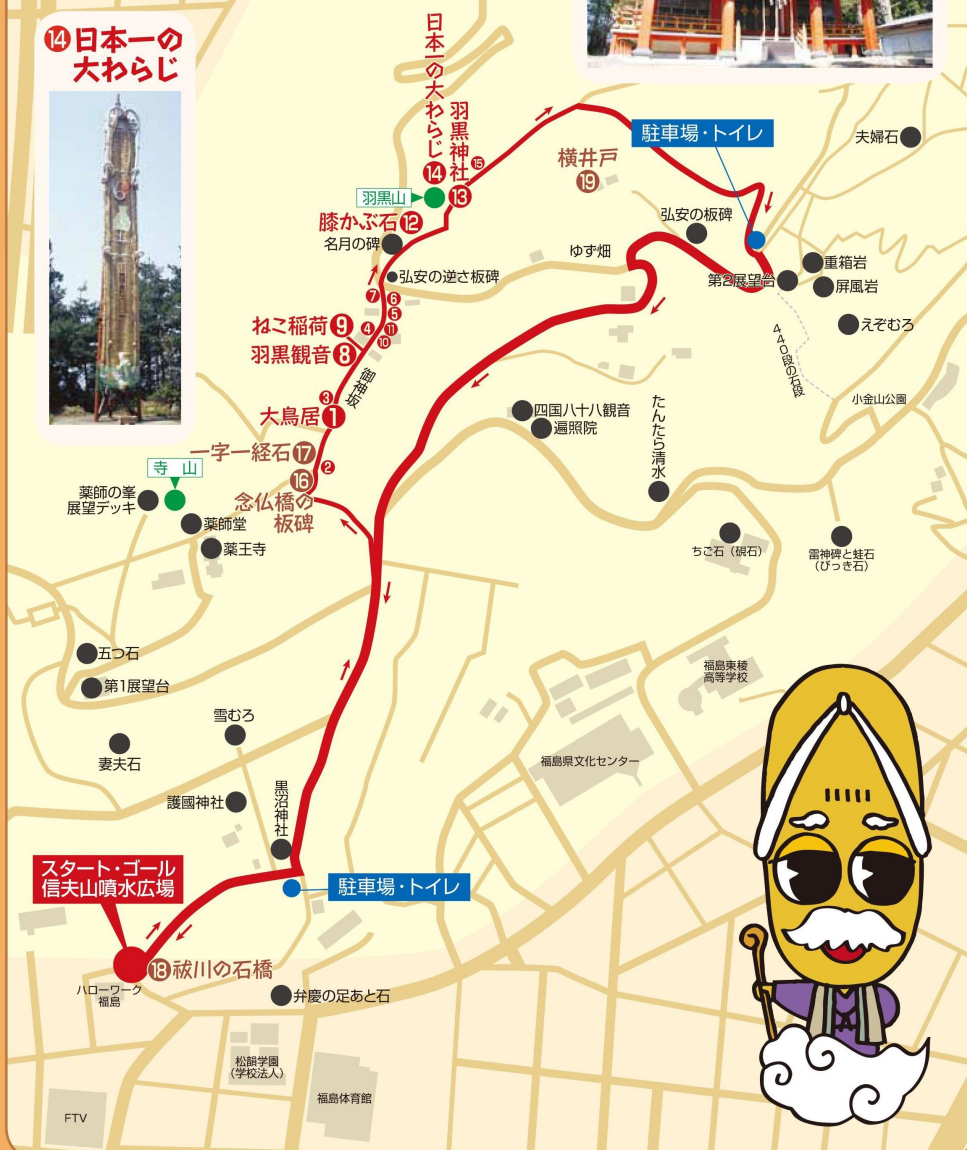
コース案内

信夫山噴水広場 → 護国神社 → 信夫山墓地
→ 舟繋ぎ松跡 → 御坂 → 鳥居平 → 赤鳥居
→ 羽黒観音 → ねご稲荷 → 石燈籠 → 大日如来
→ 仁王坂 → 名月の碑 → 羽黒神社 → 大わらじ
→ 北坂 → 第2展望台 → 甘粕の碑 → ゆず畑
→ 護国神社 → 信夫山噴水広場

⑭日本一の 大わらじ



⑬羽黒神社



⑬旧羽黒神社

以前の羽黒神社は、神殿の三方に見事な彫刻が施され、唐破風付きの大社殿であった。昭和51年に惜しくも焼失してしまった。



③羽黒観音

信達三十三観音の三番札所であり、現堂は大正7年の火災のあと南沢又の孝徳寺の薬師堂を移したものである。福島市の重要文化財である如意輪観音を念持仏としている。現在は薬王寺に保管されている。



⑨ねご稲荷

信夫の三狐の一匹、御坊狐を祀った(西坂稲荷)が本来の名称だが、御坊狐が尻尾とともに神通力を失くし、養蚕の大敵ねずみを退治する事となったことから、ねご稲荷と呼ばれるようになった。現在は、飼い猫の幸せを祈願する稲荷として写真ボードが置かれ、沢山の愛猫家が訪れている。



⑩鳥屋の石燈籠

江戸時代の飛脚問屋、鳥屋が健脚と旅の安全を願って寄進したもので、それがわらじ信仰が盛んになる要因のひとつとなったという。石がきも当時のまま残されている。



⑩大日如来幸福堂

御坂の巨木のウロに、信夫山に登るすべての人に幸せを授けるといふ、大日如来が安置されている。脇に六供僧の1人加藤大学の石碑があり77代と刻まれている。



⑫膝かぶ石

御坂の上、仁王坂にあり弁慶が膝をぶつけたら岩の方がぼこんと凹んだと伝えられている。足の悪い人がその穴に膝を当てるとたちまち快癒すると云われている。



⑮安江繁家公徳碑

上杉家の家臣で、伊達・信夫郡の郡代であった安江繁家は良政を行い領民から厚く慕われた。石碑には大日如来を表す円相が刻まれ、そこに額を当てると頭痛が治り頭も良くなるという。

